

「妙法信仰の功德」

三世常恒の御利益

日蓮大聖人の信仰の実践は、人間の命を根本から浄化し、英知と福德をそなえた人生を築くとともに、絶対の自由・平等・尊厳である真に平和で文化的な社会国家（「仏国土」）を構築することを目指しています。この実証こそ、御本尊の大功德力なのであり、信仰実践の利益なのです。

功德とは、「積功累徳」「功能福德」の意で、仏道修行という善因を修し、善根を積むことによって得る福德のことをいいます。

すなわち、利益が他から与えられるものに対して、自ら積むことを功德と称しますが、仏道修行による得利益の相からいえば、その意義は功德も利益も同一です。

功德について大聖人様は、

「釈尊の因行果徳の二法、三世十方の諸仏の修因感果、法華經の文々句々の功德を取り聚めて此の南無妙法蓮華經と成し玉へり」（『御講聞書』新編 一八五九頁）

と仰せられ、妙法蓮華經には無量の福德がそなわっていることを示されています。

さらに、そのはかり知れない功德も、

「功德とは即身成仏なり、又六根清浄なり」（『御義口伝』新編 一七七五頁）

と仰せられているように、「即身成仏」「六根清浄」の境界を開くことに極まると御教示されています。

すなわち、何ものにも脅かされない安心立命の境界の確立と、命の浄化、そして物心（二色心）両面にわたって福德に満ちた人生を築くことが、妙法信仰の功德なのです。

※ 六根清浄

仏法では、衆生の苦悩の原因を、迷いの命の根源である煩惱から引き起こされるものと解明しています。その衆生の迷いの命を浄化し、悪い性を断ち切るという果報が、まさに「六根清浄」の功德なのです。

六根の「根」とは、草木の根に譬えられ、私たちの命が周囲のものを取り入れたり、認識する能力のことで、眼根・耳根・鼻根・舌根・身根・意根の六つの器官をいいます。

眼根とは、視覚能力・視覚器官。

耳根とは、聴覚能力とその器官。

鼻根とは、嗅覚能力とその器官。

舌根とは、味覚能力とその器官。

身根とは、触覚器官としての身体とその能力。

意根とは、前の五根によって得られた内容を統合判断する思惟能力、または知覚をいいます。

この六根が煩惱に覆おほわれていると、外界の事象を正しく認識できないばかりか（＝煩惱）、それにもなう行動も誤ったものとなり（＝業）、苦しみの原因を作ることになる（＝苦）のです。こうした業苦を消滅（↓法身・般若・解脱）させるためには、六根そのものを清らかな状態にしていく必要があります。

『法師功德品第十九』には、

「是の法華經を受持し、若しは読み、若しは誦し、若しは解説し、若しは書写せん。是の人は、当に八百の眼まなこの功德、千二百の耳の功德、八百の鼻の功德、千二百の舌の功德、八百の身の功德、千二百の意こころの功德を得べし。是の功德を以て、六根を莊嚴しょうごんして、皆清淨しょうじょうならしめん」（『新編開結』 四七四頁）

と説かれ、法華經受持の功德によつて、六根それぞれに多くの清淨の果報を得ることが明かされています。

これを概説すると、次のようになります。

眼根の功德――すべての事象が明らかに見え、物事の因果を正確に知ることができる。

耳根の功德――あらゆる音声から、実・不実を聞き分けることができる。

鼻根の功德――あらゆる臭いを嗅かぎ分け、分別ぶんべつを誤ることがなくなる。

舌根の功德――勝れた味覚を持ち、さらにその声は深妙じんみょうとなり、聞く者を喜ばせることができる。

身根の功德――穩おだやかで健全な身体となり、外界の刺激に適合させ、自身を処おすることが出来る。

意根の功德――心は清らかに、頭腦は明晰めいせきとなり、智慧が深くなる。

すなわち、六根清淨とは六根にそなわる煩惱の汚けがれが払い落とされ、物事を正しく判断でき、智慧を得ることをいうのです。

たとえば目が不自由であつたとしても、妙法受持の功德によつて、肉眼にくげん以上の慧眼えげん・法眼・仏眼（＝法身・報身・応身）を得ることができるのであり、このような功德は他の五根にも通じて言えることなのです。

日蓮大聖人様は、

「功德とは六根清淨の果報なり。所詮いま今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は六根清淨なり」（『御義口伝』新編 一七七五頁）

と仰せられ、末法の法華經である南無妙法蓮華經を信じ唱える者には、必ず六根清淨の功德がそなわると御教示されています。